

# 《平成20年4月～6月会員景況感調査報告(全国版)》

総回答数 324社 (35.4%)

## 1. 地域別内訳(事業の中心をおいている地域)

東日本 80社(34.2%)	神奈川県 35社(38.0%)	中部日本 53社(30.1%)	西日本 156社(37.8%)
----------------	-----------------	-----------------	-----------------

## 2. 売上(または取扱)商品の中で最もウエイトの高いものの内訳

日用品・雑貨類 33社	包装用容器・キャップ 48社	電気・電子・通信部品 86社
自動車・輸送機器部品 83社	住宅関連 19社	その他 45社

## 3. 従業員数の内訳

1～30人 110社	31～100人 128社	101～300人 59社	301人以上 18社
------------	--------------	--------------	------------

## 4. 今期(平成20年4月～6月)の自社業況について(前期比%)<( )内は前回の結果です>

	前期(平成20年1月～3月)比					
①生産・売上高	1. 増加		2. ほぼ横這		3. 減少	
	(20.2)	19.1	(46.5)	40.4	(33.3)	40.4
②製品単価	1. 上昇		2. ほぼ不変		3. 下落	
	(12.1)	11.4	(69.9)	70.4	(18.1)	18.2
③採算	1. 好転		2. ほぼ横這		3. 悪化	
	(8.2)	4.9	(50.0)	40.7	(41.8)	54.3
④所定外労働時間	1. 増加		2. ほぼ横這		3. 減少	
	(17.0)	10.2	(62.4)	63.3	(20.6)	26.5
⑤製品在庫	1. 増加		2. ほぼ不変		3. 減少	
	(15.2)	15.7	(67.7)	64.2	(17.0)	20.1
⑥樹脂原料単価	1. 上昇		2. ほぼ横這		3. 下落	
	(77.7)	84.9	(20.9)	14.8	(1.1)	0.0
⑦総合判断	1. 好転		2. ほぼ横這		3. 悪化	
	(9.6)	5.2	(48.6)	39.2	(40.8)	54.6
⑧来期の見通し	1. 好転		2. 横這		3. 悪化	
	(11.3)	8.3	(50.7)	42.6	(37.2)	47.2

## 5. 当面の経営上の問題点(%)<( )内は前回の結果です>

1. 受注不振 (29.4) 34.6	2. 売上不振 (28.7) 31.8	3. 輸出不振 (1.4) 1.9	4. 製品単価安 (48.2) 47.8	5. 取引条件悪化 (3.5) 4.3
6. 過当競争 (14.5) 12.3	7. 輸入品との競合 (7.4) 5.6	8. 流通経費増大 (11.0) 16.7	9. 原材料高 (78.7) 83.3	10. 借入負担増 (6.4) 5.2
11. 貸し渋り (0.4) 3.4	12. 人件費高 (20.9) 15.7	13. 技能者不足 (24.1) 24.4	14. 技術力不足 (14.5) 12.0	15. マーケティング力不足 (6.0) 6.5
16. 設備過剰 (2.1) 3.1	17. 法的規制 (1.8) 1.9	18. 為替問題 (4.6) 2.8		

## 6. 平成20年度夏季賞与の支給について

支給あり			支給なし	無効回答
上昇	同等	減少		
13.6 %	46.6 %	25.3 %	11.7 %	2.8 %

## 7. その他の問題点・意見(1.9%)

- 今後の原材高が心配、価格転嫁の手立てがないか？
- 原料高でありながら、値上げ出来ず。
- 自動車関連の受注減少、得意先情報ですと、20%程度の減。10月～11月頃には金型製作中のロットマシーンの製造による受注増が見込める。
- 材料の値上げが止まらない為、単価に転嫁出来ない。なんとか政府に止めてもらいたい。
- 原材料、副資材等の値上がり分を製品単価にスライドさせるような指示、指導を例えば経済産業省等から書類で出してもらえないか、現在そのような働きかけをして頂きたい。
- 海外に注文が出て行き、先行き不安あり。
- 近年のスチレン系樹脂のメーカー受注ロットの300kg未満の取扱いは、300kg未満で@300/kgアップ。これはオーダー色、ナチュラル、標準色を含む全てに適用されています。業界として今後の材料価格上昇、価格転嫁のズレ、在庫の増加等は大変厳しい状況になってきている。今後、協会において会員間での材料の融通、共販等についてネットでの情報交換システムを構築して欲しい。
- 原材料の高騰において日本国の対策、対応を望みます。
- 金型・材料諸経費増加等不安要因が急速に増えている。
- 品質マネジメントが厳しい。
- 新規開発、受注拡大に向けた営業力不足。
- すべてが値上げで材料高を単価に反映できない。反映させると輸入品に切り替えとなりそうで出来ない。良いことはありません。
- 樹脂原料の値上げが適正かどうか、便乗値上げ部分が有るのではないか？。公的機関等で厳格に調査して欲しい。原油高ということで無条件で値上げしているメーカーばかりで、これ以上は持ち堪えられない。
- 漁業組合のように実力行使に出ないと、書面で価格改訂などお願いしても聞いてもらえないのでは？全プラで「ストライキ」を行うくらいのことを実行しないといけないのでは？
- 管理費を製品単価に入れてもらえない。
- 各メーカーの原料価格が大幅にアップ。この業界の今後は悪化する。（製品に転嫁が不能？）
- 大手ユーザーの値上げが難しい。
- 賞与支給については現在不明。
- 当社創立以来の賞与支給なしと決定。
- 最近の原料高及び引上げ時期が通達後時間的ゆとりがなく、半ば強制的であります。何とかならないでしょうか。
- 社内努力の限界を超えた原料高の製品転嫁をおし進める。
- 品種が多い、仕掛品・製品在庫増。
- 原料が高騰しているにも関わらず、価格に100%転嫁できない。この状況が2年間続いているので、必然的に経営状況は悪化する一方。漁業組合が操業を中止してアピールしているのと同じように、当プラスチック業界においても、何か値上げを理解していただける方法はないでしょうか。
- 何もかもが停滞気味。活性がない。
- 原則は、自社が変化対応(市場環境)し、自己責任で経営すべきことは、心得ておりますが、原油高騰、原料高に関しては政府にもっと価格沈静化するよう働きかけて欲しいと思います。
- 卵や漁業だけでなく、プラスチックも非常に苦しい現状を世間に訴えて欲しいです。
- 値上げの要望並びに実現。
- 品質不具合問題。
- 電気・電子・通信および自動車関連は概ね良好で来期の見通しも「まあよい」ということでした。逆に、住宅関連その他医療機器については景気が悪化しているとのことでした。特に住宅は建築確認申請の法改正による着工の遅れ、見直しなどによりかなり市況が冷え込んでいます。しかし、民間の設備投資はようやく活発化し、液晶、太陽電池などがけん引役となって投資が増えてくるものと思われます。
- 原材料高による収益悪化が限界に来ている。強硬なる製品価格引き上げが必要となっている。
- アメリカのマネーゲーム（サブプライムローン、商品先物投資、株の値下がり）、金融業界の破綻による世界経済のバランスが崩れ、原油の価格が下がらない限り先行きの見通しが見えない。

## 各分類ごとの業況判断(平成20年4～6月期)

1. 数字はすべて前期比で、単純平均%で表示しております
2. 傾向がわかるように、値が50%以上の場合は網掛けを行っております

		全 体	団 体 別				製 品 別						昨年同期比	
			中 部 日 本	東 日 本	神 奈 川 県	西 日 本	日 用 品 ・ 雑 貨 類	容 器 包 装 ・ キ ャ ッ プ	電 気 ・ 電 子 ・ 通 信 部 品	自 動 車	住 宅 関 連	そ の 他	中 部 日 本	(前回)
① 生産高 売上高	増加	19.1	15.1	13.8	11.4	25.0	18.2	35.4	17.4	15.9	15.8	13.3	23.1	29.0
	横這	40.4	41.5	51.3	34.3	35.9	51.5	39.6	44.2	35.2	10.5	48.9	34.6	43.5
	減少	40.4	43.4	35.0	54.3	39.1	30.3	25.0	38.4	48.9	73.7	37.8	42.3	27.4
② 製品単価	上昇	11.4	7.5	11.3	0.0	15.4	24.2	10.4	3.5	5.7	26.3	22.2	9.6	12.9
	不変	70.4	67.9	73.8	77.1	67.9	72.7	85.4	70.9	64.8	63.2	64.4	67.3	40.3
	下降	18.2	24.5	15.0	22.9	16.7	3.0	4.2	25.6	29.5	10.5	13.3	23.1	46.8
③ 採算	好転	4.9	7.5	3.8	0.0	5.8	6.1	2.1	7.0	3.4	0.0	8.9	9.6	16.1
	横這	40.7	45.3	45.0	34.3	38.5	54.5	39.6	44.2	35.2	47.4	31.1	38.5	41.9
	悪化	54.3	47.2	51.3	65.7	55.8	39.4	58.3	48.8	61.4	52.6	60.0	51.9	41.9
④ 所定外 労働時間	増加	10.2	13.2	8.8	0.0	12.2	0.0	22.9	10.5	9.1	10.5	4.4	7.7	12.9
	横這	63.3	60.4	72.5	54.3	61.5	87.9	64.6	64.0	63.6	47.4	51.1	63.5	67.7
	減少	26.5	26.4	18.8	45.7	26.3	12.1	12.5	25.6	27.3	42.1	44.4	28.8	19.4
⑤ 製品在庫	増加	15.7	13.2	15.0	11.4	17.9	21.2	18.8	11.6	13.6	26.3	11.1	9.6	12.9
	横這	64.2	67.9	66.3	71.4	60.3	69.7	64.6	61.6	68.2	52.6	66.7	75.0	69.4
	減少	20.1	18.9	18.8	17.1	21.8	9.1	16.7	26.7	18.2	21.1	22.2	15.4	17.7
⑥ 材 料 調達単価	上昇	84.9	79.2	86.3	82.9	86.5	87.9	87.5	79.1	84.1	89.5	88.9	78.8	85.5
	横這	14.8	20.8	13.8	17.1	12.8	12.1	12.5	19.8	15.9	10.5	11.1	21.2	12.9
	下落	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
⑦ 総合判断	好転	5.2	5.7	3.8	0.0	7.1	6.1	8.3	5.8	1.1	5.3	6.7	3.8	17.7
	横這	39.2	49.1	43.8	34.3	34.6	45.5	31.3	44.2	44.3	26.3	31.1	50.0	41.9
	悪化	54.6	45.3	52.5	65.7	56.4	48.5	60.4	47.7	54.5	68.4	60.0	46.2	40.3
⑧ 来期の 見通し	好転	8.3	9.4	10.0	8.6	7.1	9.1	8.3	10.5	5.7	5.3	11.1	11.5	12.9
	横這	42.6	41.5	46.3	42.9	41.0	27.3	35.4	39.5	47.7	47.4	55.6	40.4	54.8
	悪化	47.2	49.1	43.8	48.6	48.1	60.6	52.1	47.7	46.6	42.1	33.3	48.1	32.3

## 各分類ごとの経営上の問題点(平成20年4～6月期)

1. 数字はすべて前期比で、単純平均%で表示しております
2. 傾向がわかるように、値が50%以上の場合は網掛けを行っております

	全 体	製 品 別					
		日用品・雑貨類	容器包装・キャップ	電気・電子・通信部品	自動車	住宅関連	その他
受注不振	34.6	30.3	20.8	39.5	36.4	52.6	33.3
売上不振	31.8	51.5	20.8	26.7	31.8	42.1	31.1
輸出不振	1.9	0.0	0.0	1.2	3.4	0.0	4.4
製品・請負単価安	47.8	42.4	52.1	51.2	55.7	31.6	31.1
取引条件悪化	4.3	3.0	2.1	2.3	8.0	0.0	6.7
過当競争	12.3	18.2	12.5	10.5	9.1	10.5	17.8
輸入品との競合	5.6	9.1	8.3	5.8	2.3	5.3	6.7
流通経費増大	16.7	33.3	12.5	12.8	19.3	5.3	15.6
原材料高	83.3	97.0	93.8	77.9	76.1	84.2	86.7
借入負担増	5.2	9.1	6.3	8.1	4.5	0.0	0.0
貸し渋り	3.4	0.0	2.1	7.0	4.5	0.0	0.0
人件費高	15.7	18.2	6.3	14.0	26.1	10.5	11.1
技能者不足	24.4	12.1	22.9	24.4	27.3	21.1	31.1
技術力不足	12.0	3.0	10.4	17.4	18.2	0.0	4.4
マーケティング力不足	6.5	9.1	10.4	2.3	4.5	10.5	11.1
設備過剰	3.1	3.0	0.0	2.3	5.7	5.3	2.2
法的規制	1.9	0.0	2.1	3.5	1.1	0.0	0.0
為替問題	2.8	0.0	0.0	4.7	1.1	10.5	4.4